

行事名	「科学 Try アングル岡山」主催 英会話研修		
担当部門・機関	国際交流部門・岡山大学		
開催日時・期間	平成 22 年 1 月 28 日(木) ～3 月 25 日(木) まで 月曜日・木曜日の週 2 回 17 時 30 分～19 時 30 分	開催場所	岡山大学 一般教育棟 C 棟 C-1 2 教室

《概要》

外国人研究者や外国人留学生の増加などに伴い、職務を遂行する上で英語を使用したコミュニケーション能力が不可欠となっていることに鑑み、職員を対象とした英会話研修を実施し、職務の円滑な遂行及び資質の向上を図ることを目的とする。

「科学 Try アングル岡山」参画機関の職員（教員を除く）及び語学能力として概ね TOEIC 400 点以下の者を対象とした初級者向けの研修を目指す。

《講師および参加者について》

講師： クリストファー クレイトン

参加職員の数：

参加申込みを行った人数は 26 名で、いずれも岡山大学または岡山理科大学に所属する職員であった。開催場所が岡山大学であったため、地理的な問題から、倉敷芸術科学大学、津山工業高等専門学校、岡山県からの参加が無かったと見られる。

毎回 10～15 名の職員が参加し、うち、出席が規程回数を超えた 7 名が修了証書の授与を受けた。

《報告事項》

I. 受講者アンケート

本研修終了後にアンケートを実施した。参加者のうち、10 名から回答を得られた。集計内容は以下のとおり。

(1) この研修をどのようにして知りましたか？（複数回答）

事務部からの案内メール	7 人
所属大学・高専のホームページ	1 人
友人または知人から聞いて	1 人
*その他	2 人

*内訳：学内教職員専用HP・講師の紹介

(2) 研修の実施時期、開始時刻について教えてください。（複数回答あり）

実施時期について

早い	1 人
適切	5 人
遅い	4 人

望ましい時期

4～6 月	
7～9 月	5 人
10～12 月	2 人
1～3 月	

(3) 研修のレベルについてお聞かせください。

易しい	2人
ちょうどよい	6人
やや難しい	1人
難しい	0人

(4) 研修で所属の異なる部局、大学、高専等機関の職員と交流できましたか？

はい	8人
いいえ	2人

(5) 研修の満足度をお聞かせ下さい。

非常に満足	5人
満足	3人
ふつう	2人
やや不満	0人
不満	0人

(6) 戦略的大学連携支援事業（戦略 GP）「科学 Try アングル岡山」の名称または活動をご存知でしたか？

聞いたことがある	4人
参加したことがある	1人
今回初めて知った	5人

(7) 英会話研修や「科学 Try アングル岡山」(GP) について、感想・ご意見・ご要望等、ございましたら、ご自由に書いてください。

- ・ 楽しく学習することができました。また、次回の機会がありましたら、ぜひ企画をお願いいたします。クリス先生もとても良かったです。ありがとうございました。
- ・ 講師の方が、大学職員が実践で活かせるような内容を工夫していただき、また重要なポイントについては、何回かのレッスンにわたって復習をしてくれるのでありがたかった。事前にメールをいただいて過去のレッスンのポイントや次回のレッスンについて文章で確認できることも良かった。
- ・ 他部局の方と知り合いになれたことが1番の収穫でした。開始時刻については、私にとってはちょうど良かったのですが、遅れて来られるかたも多かったので、18:00 以降に開始した方が参加しやすいかもしれません。

- ・今回この企画に参加させて頂き、学生以来久しぶりに英語に親しむ機会を持つことができました。「職員のみ対象」ということが、大変やる気を起こさせてくれる一つでもあります。大学という大きな組織の一員とはいえ、他部局の方はおろか、部局の存在すら今まで知る機会がありませんでした。今回の参加で様々な方と交流が出来、職場への愛着が増すきっかけともなりました。その交流が英会話で出来れば、この研修の成果と言えのでしょうか、そこまではまだまだ遠いレベルです。が、これをきっかけに、英会話だけでなく、自身の向上の意識を高めていきたいと思っています。出来れば、このような機会を定期的に、欲を言えば通年でもしていただければ、と願っています。継続はすべての力の源と、今回の研修を通じて再認識いたしました。
- ・私は欠席・遅刻が多かったのですが、それでも受講してよいとのことだったので、最後まで参加しやすかったです。また参加したいので、ぜひ次回も実施して頂きたいです。ありがとうございました。
- ・次も Advance class があれば参加したい。

II. 所感

アンケート結果を見てもわかるとおり、今回の英会話研修は非常に好評であった。

講師のクレイトン先生は、毎回、大学での業務に関係のある話題を教材として提供してくれ、参加者各人が所属する大学の説明を英語で行った。英語での説明が難しいこと以前に、職員として大学のことをどれだけ理解しているのか、あらためて気づかされたこともある。

残念であったのが、倉敷芸術科学大学・津山工業高等専門学校への配慮が十分でなかったことだ。来年度、この研修を継続する場合は、倉敷・津山方面へ出張講義や、ワークショップ形式の研修として4校の職員が一同に集まれるような機会を作ること検討したい。

III. 研修の様子

(開講初日の様子：ペアワーク)



(修了証書の授与)



(最終日のうちとけた様子)



(閉講式での原田センター長挨拶)

